



先進の精密加工機が並ぶ工場

わずか直径0.8mmのねじ、孔径0.2mm以下のノズル 小径・小ロット・短納期を完成品で

株式会社MPC

大阪
21

ISO 9001

<http://www.mpcweb.co.jp/>

Company Profile

株式会社MPC

住 所 / 〒581-0039
八尾市太田新町8-41
創 業 / 昭和33年
設 立 / 昭和56年1月
資本金 / 3,000万円
従業員 / 8名
T E L / 072-948-6081
F A X / 072-948-6083

■主な事業内容

金属切削加工業、精密部品販売

■主な取引先

ねじ専門商社、計器会社 等
(医療、弱電、大学の研究開発室 等)



微細加工技術を駆使した蟻 (デモンストレーション品)

**内視鏡、カテーテル用等
マイクロねじやノズルなど
微細加工に特化**

写真のマッチ棒の先よりも小さな金属の蟻達は、胴体に直径(φ)0.27mmの孔をあけ、直径0.25mmに削り出したピンの触角と脚を差し込んだもの。MPCの微細加工技術の一端を紹介する、デモンストレーション品である。

MPCは、ノズルやねじ等の中でも特に小径の微細加工を得意とする、国内でも数少ない企業のひとつだ。例えばねじは通常、M2・0、M1・6というようにサイズ表記され、それぞれ直径2・0mm、1・6mmを示している。これらはマイクロねじと呼ばれるが、MPCが得意とするのはさらに微細なM1・0(M0・8、つまり直径1mmを切るマイクロねじだ。ノズルのような孔あけ加工においても、直径0.2mmからそれ以下で貫通させることが可能だ。こうした微細加工の需要は、内視鏡やカテーテルの製作等医療分

野に多い。他にも弱電や計器、時計加工等個人からの需要もある。

試作や研究用にも積極対応

今日では、微細度合いへの需要はますます高まる一方向だ。そしてそれらを量産する段階になると、よりコストメリットの大きな万単位の小ロットでの需要も生じてくる。

その中でMPCが追求しているのは「小径・小ロット・短納期を完成品で」。得意のM1・0(M0・8の加工品を2000〜20000個の小ロット、短納期でメッキや焼入れまで行った完成品を納入する、という意味だ。これは、得意とする範疇でこそ、本当にお客様が納得のいく品質とコストで提供できるという同社の信念の表れでもある。

事実「試作品だから」「研究用に使いたい」といった小ロットのニーズは多い。同社では産学連携にも積極的に参加。実際にロボット部品の調整用マイクロねじを製作するなど、大学と意見交換をしながら

らのものづくりも重ねている。



弊社で切削した製品サンプル

品質管理、納期管理を徹底

同社は、創業時にカメラ部品の加工をしていたことから培った高い技術とノウハウを微細加工に生かしている。社員教育の面でも「社員は全員単なる製造ではなく、営業・技術社員である」という心構えを持ち、技術面ではマニュアル化を進めることで技術の継承や情報の一元化を図っている。さらには、受注の際はロット単位で担当者が製造から発送までを一括管理。自社内での検査を行い、材料証明書や検査表を発行する等、徹底した品質管理・納期管理を行っている。

当社のセールスポイント

お客様のものづくりを支えるために。
さらなる微細化を目指します。



代表取締役 森岡 孝一さん
専務取締役 森岡 京介さん

当社では「他社に当たったが出来ないと言われた」とお困りの企業様から、微細加工のご相談を頂くこともよくあります。そんな時は実際にお会いしてご要望を伺うと「ウチで何とかしたい」という思いが生まれます。人と人のふれあいを大切にすることが私どものつとめです。今後は、微細加工の取扱率をさらに増やして、一層の微細化に挑戦したいと考えております。